

交流の積み重ね

9月2日から5日間、ここ長春市で第4回北東アジア投資貿易博覧会が開催されました。日本、韓国、ロシア、モンゴルといった国々の企業が中心に出展するまさに国家級の博覧会です。

鳥取県からは食品、電子分野等の7社が参加しました（うち5社は展示のみ）。

私も来場者の対応をしましたが、中国人から日本語で話しかけられることが多いことに驚きました。今は日本語を使う機会はないものの学生時代に日本語を専攻していたという人、十数年前に日本へ研修に行ったという人、娘が日本に留学しているという人等、日本とのかかわり方はさまざまです。来場者の対応にあたり、日本語を専攻する数名の学生ボランティアに手伝ってもらったのですが、彼らは日本語能力が高いばかりか日本への関心も非常に強く、とてもたのしく思いました。

長春には日本語を専攻する学生がたくさんいます。わたしも何回か友人の外国語学校で日本語専攻の学生に簡単な講義をしましたが、その際、彼らからたくさんの質問を受けました。とてもうれしいことです。

博覧会には数年前に今の私と同じ立場で長春に派遣された職員も同行したのですが、彼の到着前から、“長春に着いたら一緒に食事がしたいので電話をほしい”というこえを多くの友人から受けていました。

そして、数年ぶりの来長（来中）に、まさに熱烈歓迎でした。

私も長春に赴任してすぐに、たくさんの友人から声をかけてもらいました。友人とはいっても、はじめて会う人がほとんどです。今もよく食事に誘われますが、生活面のみならず仕事の面でもいろいろとお世話になっています。

友人の多くは何らかの形で、例えば出張、研修等で鳥取県、あるいは日本と関係をもったことのある人たちです。それもこれまでの鳥取県と吉林省の地道な交流の成果の現れなのだと思います。

のこり4ヶ月の任期・・・、帰国しそして再開した際に、心から喜びあえるような、よい付き合い方ができればと思っています。

（吉林省派遣 竹中和彦）